

石川県警察本部少年サポートセンターとの連携による少年立ち直り支援活動

団体名 ● 池田ゼミナル、中尾ゼミナル

代表者名 ● 池田 幸應(人間科学部スポーツ学科・教授)・中尾真和(経済学部経済学科・准教授)

はじめに

社会生活での ICT 浸透化、そして新型コロナウイルス完成拡大による社会状況の変化により私たちの生活環境も大きく変化している。この中で少年たちの非行件数は減少傾向ではあるが、その内容はより深刻化し、警視庁でも「地域の少年は、地域で育てる」という意識をもって地域ぐるみの取り組みの重要性を指摘している。現在、石川県警察本部「少年サポートセンター」と本学人間科学部池田ゼミナルおよび経済学部中尾ゼミナル学生が連携・協働し、2013年度より継続的に体験活動を中心に非行少年の立ち直り支援活動に参画している。

活動内容

昨年度同様、本年度も新型コロナウイルス感染拡大により、地域社会での様々な活動が中止または規制されている状況の下で、可能な範囲での連携活動を実施した。具体的活動は以下のとおりである。

- あすなる農園の「カカシ作り」〔6/22、金沢市内「あすなる農園」〕
- 「犯罪防止啓発アニメーション」の収録(SNSにて公開)〔7/1、石川県警察本部「武道場」〕
- 少年たちとの「さつまいも掘り体験」のサポート〔11/6、金沢市内「あすなる農園」〕
- 少年たちとの「大根掘り体験」のサポート〔12/4、金沢市内「あすなる農園」〕

成果、結果の考察

現在の社会状況は、犯罪の低年齢化、凶悪化が一層進み、これから親となる年齢層の学生自身にとっても「犯罪」は決して遠い存在ではない。学生にとって、日常生活の中で非行少年と直接会い、警察関係者と共にその支援活動に協働参画することは殆んど無く、この少年サポート活動は、少年やその保護者、サポートセンター関係者にとっての支援だけではなく、学生自身の成長にも繋がっているものと推測される。参画した学生にとって、犯罪に対する抑止意識や子どもたちへの健全育成への関わり意識が向上

している。なお、実際に本活動に参画したゼミナルOBの多くが、現在、警察官として地域社会で活躍している。

また、現在、池田ゼミナル学生2名が金沢東少年補導員連絡協議会「少年補導員」として正式に委嘱(2020・2021年度の2年間)を受け活動している。



写真 「あすなる農園」での案山子づくりの学生たち

今後の課題、展望

本年度も、残念ながら新型コロナウイルス感染防止上、活動が中止または規制される状況であった。この活動には、本学の2ゼミナル学生の他に金沢大学の学生たちも参画しているが、その学生たちとは殆ど積極的な交流ができていないのが現状であり、今後、メンバー間の連携を更に深化させ、より多くの視点を有する他大学の学生や高校生等とも協働で取り組むことで、学生の学びとサポートの輪が更に広がることを望まれる。